

認知症チーム活動報告

○森本 沙織¹⁾，石井 未来¹⁾，松井 香¹⁾，田村 昌樹¹⁾，平田 貴也¹⁾，
高取 佑里¹⁾，川元 奈津美¹⁾，佐田 健太¹⁾，永瀬 佳澄¹⁾，金井 敦史²⁾，
石田 真也³⁾，唐川 佳明⁴⁾

1) 医療法人 誠和会 介護老人保健施設 福寿荘リハビリテーション部

2) 医療法人 誠和会 倉敷記念病院リハビリテーション部

3) 医療法人 誠和会 倉敷記念訪問看護ステーション

4) 医療法人 誠和会 通所リハビリせいわ

【はじめに】

認知症チームは開設当初からチームのメンバー主体で勉強会、症例検討会をオープン参加型で開催し、知識を深め治療効果を上げていくことを目標として活動を継続してきた。今年度は個々で研鑽を積みつつ、これまでに培ったメンバーのつながりを活用しそれぞれが抱える問題や情報を共有しながら治療にあたったり、協力して活動を行ったりすることでより高みを目指した。その中で令和 6 年度は、地域の支援センター主体で開催する 2 つの認知症カフェに参加した活動内容と今後のチームの展望について報告する。

【活動報告】

1 件目：認知症カフェにて【音楽】の話をする

参加メンバー：OT1 名，MT1 名

活動内容：倉敷市南高齢者支援センターが主催する【認知症について学ぶ カフェつぶえ】に講師として参加し、音楽の効果や認知症の方との音楽体験について 40 分間の講話と音楽活動を行った。

当日の様子：認知症の当事者の方々，ボランティアスタッフ 10 名ほどを含めた地域の方々，施設職員，社会福祉協議会の方，市議会議員，演奏家などおよそ 50 名が集った。会場には認知症に関する多数の文献や勉強会の広報紙，受け入れ施設に関するパンフレットなど参加者が手に取りやすいよう展示されていた。文献は貸し出しも可能とのこと。また，手作りお菓子の販売や自宅で栽培した植物入り飲み物が振舞われるなど，参加者が得意なことを発揮できる場としても機能していた。ボランティアスタッフや職員が随所に配置され，当事者の方々が安心して参加出来るような配慮も見られた。将来認知症が発覚してもこの

場所に足を運ばば必要な情報やサービスにたどり着けるような環境が整えられ、地域の頼れる場所となっていた。

参加者の感想：「楽しかった」「物足りない」「もっとやりたい」「初めて聞く話があった」「やっぱり日本人の心は演歌よね！」「童謡がいい」「民謡は思い出すこともあるけど、行ったことがないところでもその場所へ連れてってくれる」「年齢層が違くと曲の好みも違いますね」等、様々な言葉を賜った。

2 件目：認知症カフェにて【クリスマス会】をする

参加メンバー：PT1 名，OT2 名，MT1 名

活動内容：倉敷市西高齢者支援センターが主催する【おしゃべりカフェ オレンジ】にて、クリスマス会を計画・実施する依頼を受け、音楽鑑賞，楽器を使った活動，コミュニケーション活動，身体活動などを 60 分間行った。

当日の様子：認知症当事者やその家族，地域の高齢者，民生委員，ボランティア，認知症マイスターの方などおよそ 20 名が集った。我々の事前認識では，認知症カフェとは組織的に認知症の啓発活動を進めたり，当事者の周辺症状を発散できる場であったり，ケアをする家族が仲間を見つけることが出来る場所であった。しかし，今回はクリスマス会であったことも影響したようで，当事者がまず出かけてくること，参加すること自体に意義がある会となっていた。コロナ禍以降カフェの開催は 5 年ぶりで一年を通して顔見知りになってきたところだと言う。参加者が手作りしたお菓子も振舞われ，最後まで和気あいあいとした雰囲気の中で気軽に参加し交流が出来る場となっていた。

参加者の感想：「もう少し歌いたい」「どれくらいであれだけの演奏が出来るようになったの？」「良かった」「楽しかった」など肯定的な言葉を賜った。

まとめ：認知症の方を取り巻く環境は地域によって異なり，認知症カフェも主催者によって運営方法や方針が多様であることを目の当たりにした。また，音楽には人と人を繋ぐ力があることを改めて体感し，今後も縁を繋げる架け橋になるよう努めたいと思った。

【今後の展望】

次年度も個々の得意なことや強みを活かした活動を継続していく。その中で認知症の方の「その人らしさ」や「他者との結びつき」を大切に，「認知症の方から学ばせていただく姿勢」を忘れず，賜った智慧や知識，ケアの技術やチームの取り組みを部内外・地域へ発信していくことで，認知症の方が安心して過ごせる生活を多くの仲間と共に守り作り上げていきたいと考えている。